

(1) 令和 6 年度の事業の実績および
令和 7 年度の主な取組について

①健康増進事業について

1. 生活習慣病発症予防

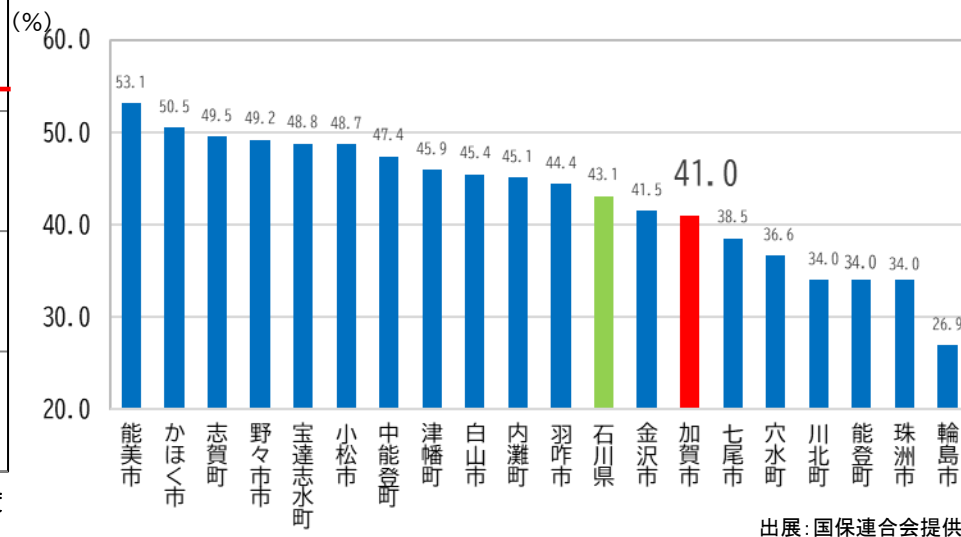
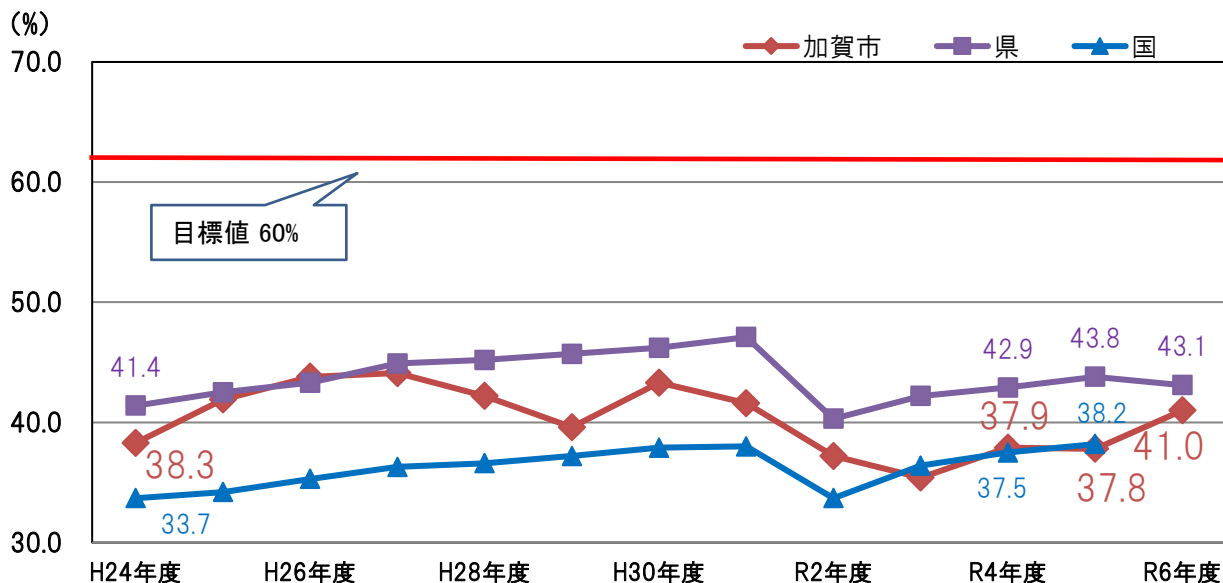
1) 特定健診受診率向上（対象：加賀市国民健康保険 40歳～74歳）

【概要】 特定健診とは、死因の約6割を占める生活習慣病予防のため、40歳から74歳までの方を対象にメタボリックシンドロームに着目した健診のことである。

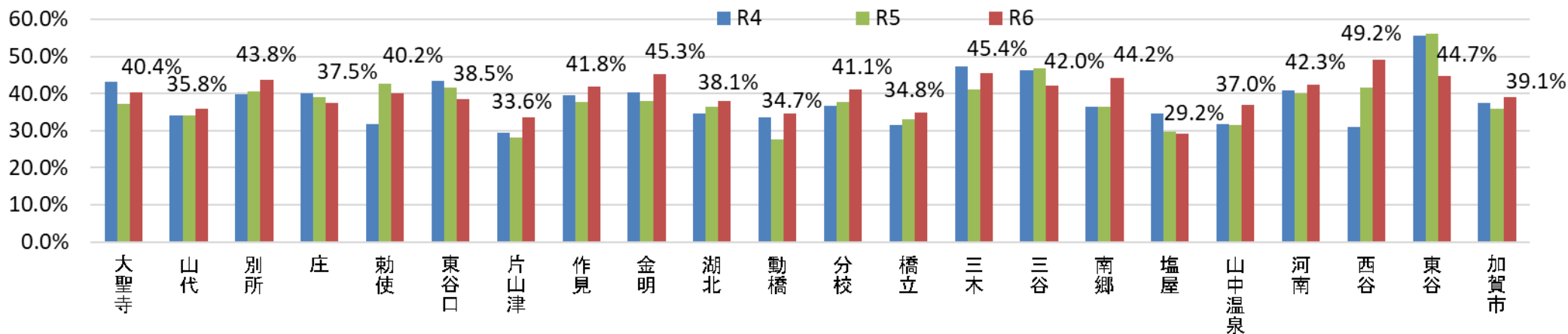
【加賀市国保特定健診受診率】 令和6年度受診率(速報値) は、41.0%であった。

令和6年度対象者数：7,943人

【令和6年度県内特定健診受診率】（R7.4.25現在）



【地区別特定健診受診率】 西谷地区、三木地区、金明地区の順で高い状況である。



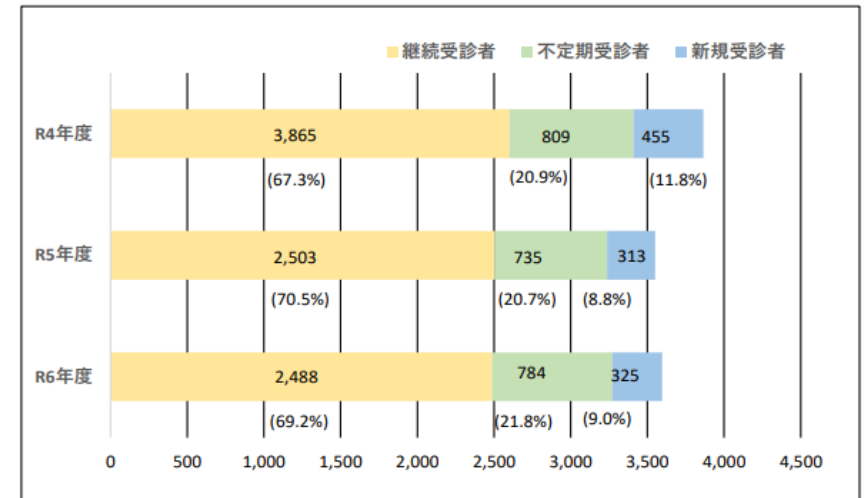
【健診費用無料者（40歳、65歳）の継続健診受診率（R5→R6）】

健診費用無料対象者は、受診率は40歳は低く65歳は高かった。次年度の継続受診者（受診率）は、41歳は高くなり、66歳は微増した。

	継続者	40歳	翌年継続者	65歳	翌年継続者
R4 ↓ R5	受診率	18.0%	27.8%	42.5%	75.0%
	受診者 /対象者	18/100	5/18	128/301	96/128
R5 ↓ R6	受診率	21.6%	50%	42.5%	78.2%
	受診者 /対象者	16/74	8/16	133/315	104/133

【新規、継続、不定期受診者の割合】

健診受診者の内、2年継続受診者は約7割にとどまり、不定期受診者が約2割みられる。



令和7年度特定健診受診率向上の主な取組

【令和7年度加賀市国保特定健診受診率（目標値） 46.0%】

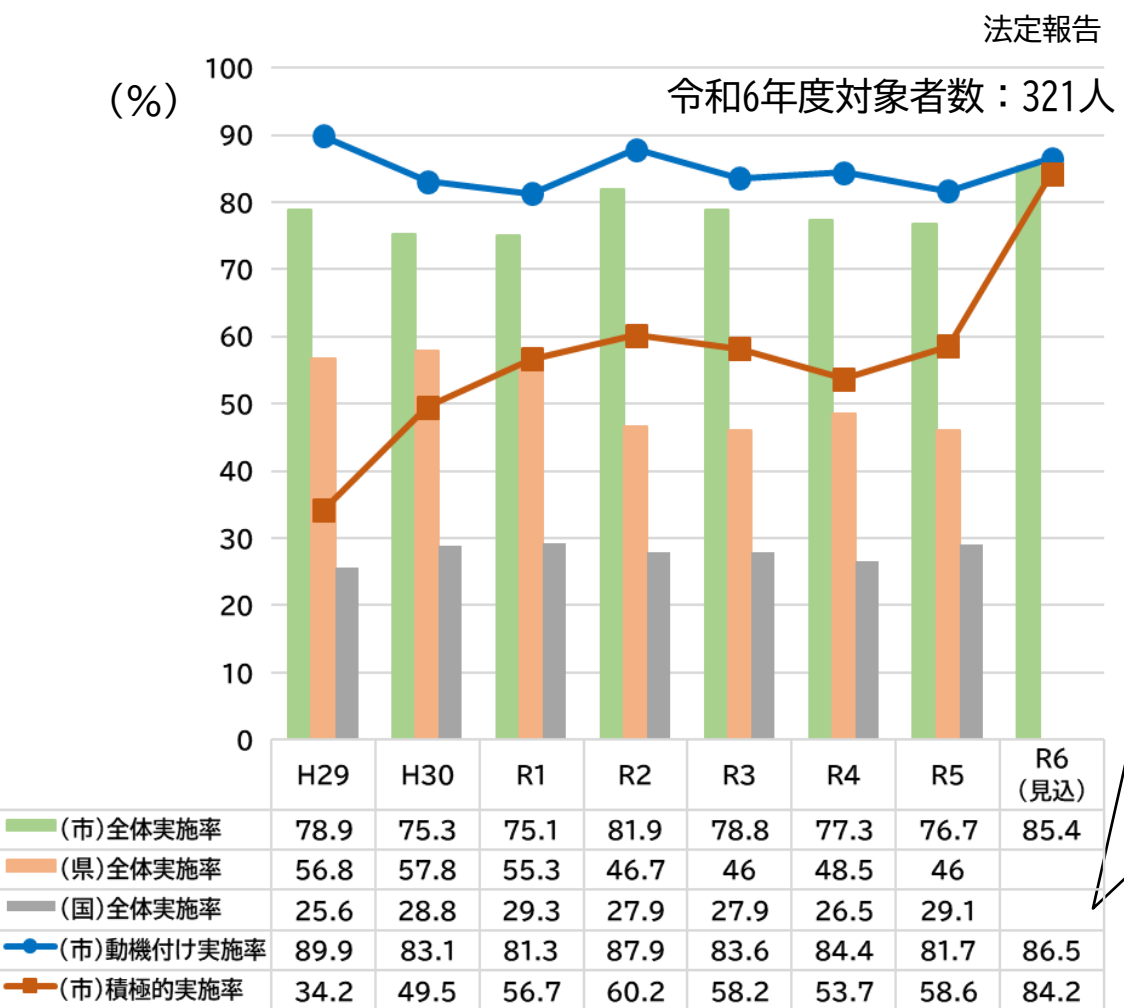
取 組	概 要	令和6年度	令和7年度
魅力ある健診づくり ② 集団健診会場での無料測定会同時開催	企業と協働し、特定健診を実施する集団健診会場で無料測定会を同時開催する。 【内容】 骨密度測定等	延べ1,312名参加	延べ1,700人
未受診者対策 ① 国保連合会による電話勧奨事業(6月) ② 未受診者勧奨通知(9月)	① 若い世代（40歳～59歳）※R6年度は42～59歳 令和6年度中に国保に加入した人 令和6年度未受診で不定期受診の人 ② R7.9月時点の未受診者全員に勧奨通知を送付。	① 1,550人 ⇒内、約40%受診（6月実施） ② 6,747人 ⇒内、約25%受診	① 約1,000人 ⇒内、40%目標（6月実施） ② 約7,000人 ⇒内、30%目標
地域との連携による健診啓発 ① 健康づくり推進員による健診勧奨(10月) ② まちづくり推進協議会(地区公民館)等との連携 ③ 民生委員への周知	① 健診費用無料対象者（40歳、65歳）及び前年度の無料対象者（41歳、66歳）に個別訪問により健診勧奨。 ② 健診や受診率について共有を図り、広報等を通して健診の周知、啓発を依頼。 ③ 民生委員役員会で健診の周知及び各地区受診率等を共有し活動での啓発を依頼。	① 460人 ⇒内、約30%受診	① 600人 ⇒内、30%目標 ② 受診率の低い地区に実施 ③ 6月4日実施
④ 専任者等による受診勧奨訪問及び電話	専任看護師等による個別健診受診勧奨訪問及び電話の実施	健診未受診者で、医療機関治療中者等	受診率の低い地区等への訪問も実施等

2) 特定保健指導の充実（対象：加賀市国民健康保険 40歳～74歳）

【概要】 特定保健指導とは、特定健診の結果から、生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣の改善によって生活習慣病の予防効果が多く期待できる対象者に対して医師、保健師、管理栄養士等による生活習慣を見直すためのサポートをすることである。

【特定保健指導実施率】

令和5年度は市の目標値である80%には届かず76.7%となったが、国、県より高い実施率となった。
令和6年度は地域の在宅栄養士の協力により、集団健診全会場で初回面接（分割）することで対象者が利用しやすくなり、利用率が増加した。また、地域の身近な医療機関でも利用することができるため、継続利用率が伸び実施率は85.4%の見込みである。



R6(見込)は初回利用率で算出。
★初回分割実施件数

【集団検診会場における初回面接（分割）実施状況】

	R4		R5		R6	
	対象者	利用率	対象者	利用率	対象者	利用率
動機付け支援	224.0		213		245	
内、初回利用者	188.0	83.9	175	82.2	212	86.5
内、初回分割利用者	23	12.2	28	16.0	44	20.8
積極的支援	67		70		76	
内、初回利用者	52	77.6	56	80.0	64	84.2
内、初回分割利用者	5	9.6	10	17.9	20	31.3

【医療機関における特定保健指導実施状況】

	R5(実数)			R6(見込み)		
	対象者	終了者	終了割合	対象者	終了者	終了割合
動機付け支援	216	176	81.5%	245	210	85.7%
(内、医療機関委託分)	22	22	100.0%	40	40	100.0%
積極的支援	83	59	71.1%	76	58	76.3%
(内、医療機関委託分)	9	9	100.0%	14	11	78.6%
計	299	235	78.6%	321	268	83.5%

資料：法定報告

2) 特定保健指導の充実（対象：加賀市国民健康保険 40歳～74歳）

令和7年度特定保健指導の充実における主な取組

取 組	概 要	令和6年度	令和7年度 (見込み)
④ 特定保健指導実施体制強化			
①地域の在宅栄養士や医療機関との連携による利用しやすい相談日の確保	①集団健診全会場での初回面接実施及び設定日（休日含む）の実施、委託医療機関における特定保健指導の実施	① 42回 6 医療機関	① 44回 (休日5回) 5 医療機関
②特定保健指導従事者と連携した支援	②統一した教材の使用（共通の健康づくりチラシの配布）、特定保健指導情報交換会の実施	② 0回	② 1回
③前年度対象者への健診勧奨による発症予防	⑥R6年度特定保健指導対象者への健診勧奨の実施	③ 81件	③ 80件
⑤ 生活習慣改善プログラム			
①食事体験を通じた適量学習	①バランス食の試食体験	① 20人	① 20人
②血糖自己測定体験	②血糖自己測定器を2週間装着体験	② 16人	② 20人



血糖自己測定体験



バランス食の試食体験

3) がん検診受診率向上

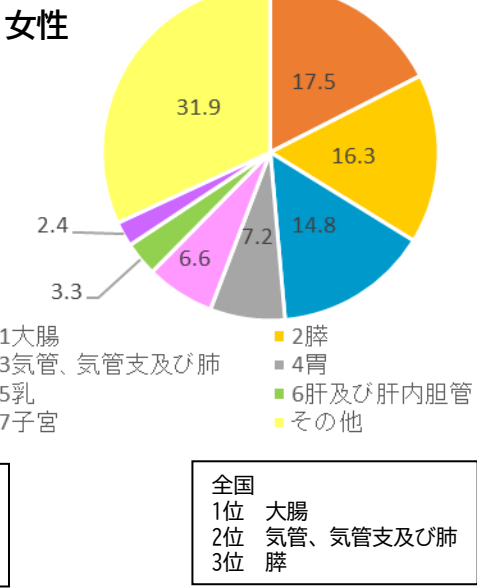
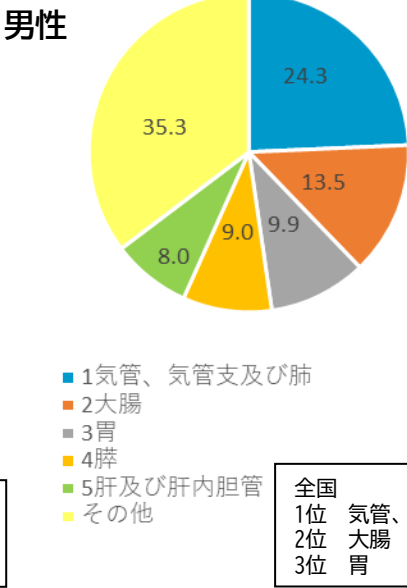
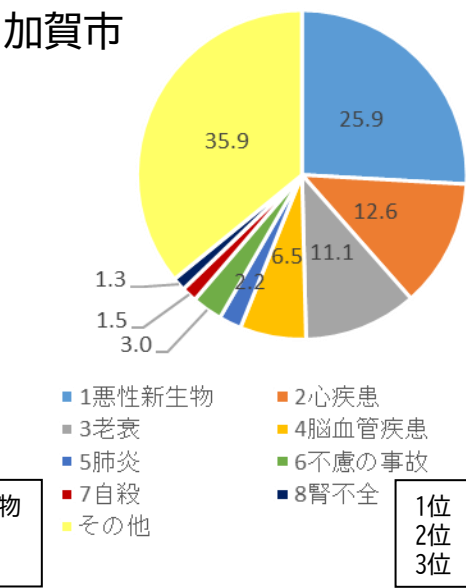
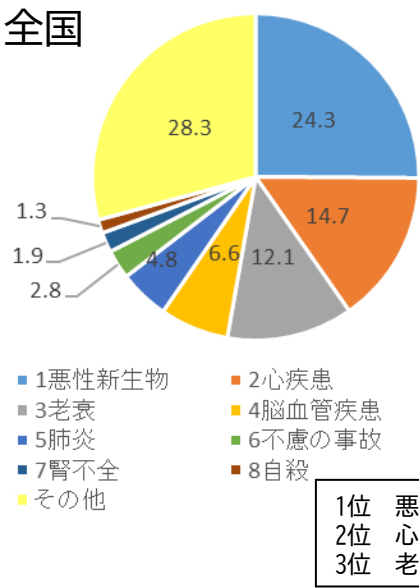
概要：国の指針に基づくがん検診を行い、がんの早期発見・治療に結びつけることで、がんによる死亡（早死）を減らす。

【令和5年 主要死因割合】

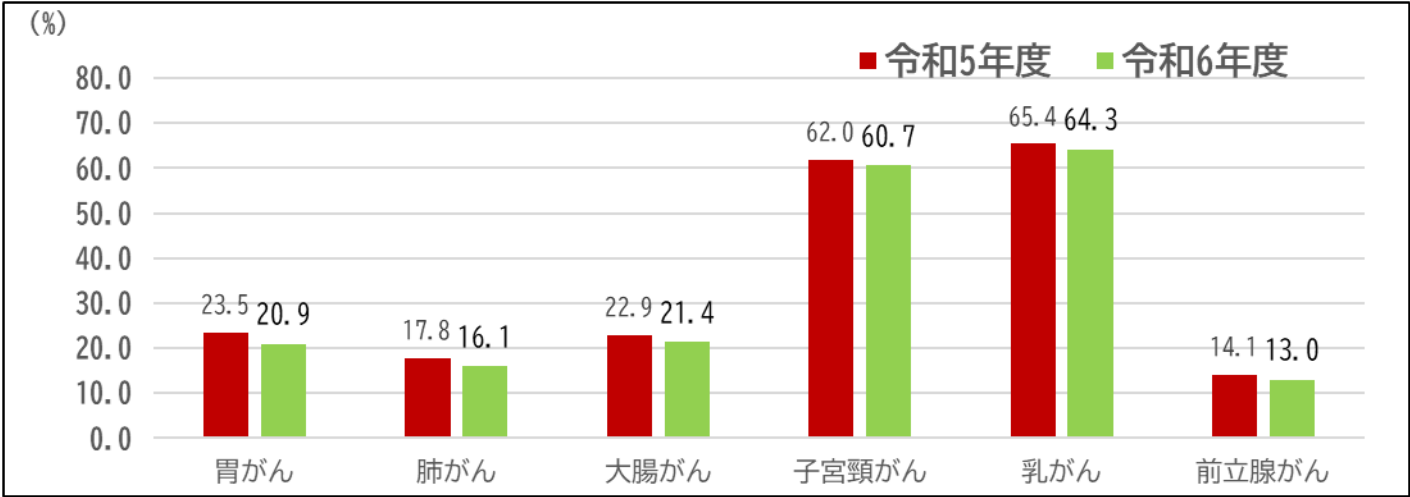
国・市ともにがんが約3割を占める。

【加賀市悪性新生物（がん）死因割合 令和3年～5年 3年平均】

男女ともに肺、大腸がんが多い。



【がん別受診率】



令和6年度のがん別受診率は子宮頸がんと乳がんで目標値の60%を上回っているが、その他のがん（前立腺がんは計画対象外）は達成できていない。

※1 がん検診受診率の対象は40歳から69歳（子宮頸がん20歳から69歳、前立腺がんは50歳から69歳）
※2 がん検診受診率の対象数は令和2年国勢調査をもとに石川県における対象者の算出方法で算出
※3 胃がん、子宮頸がん、乳がんの検診受診率は、以下の方法で算出
（前年度の受診者数＋当該年度の受診者数－前年度及び当該年度における2年連続受診者数）／（当該年度の対象者数）×100

【令和6年度 がん検診費用無料対象者の検診受診率】

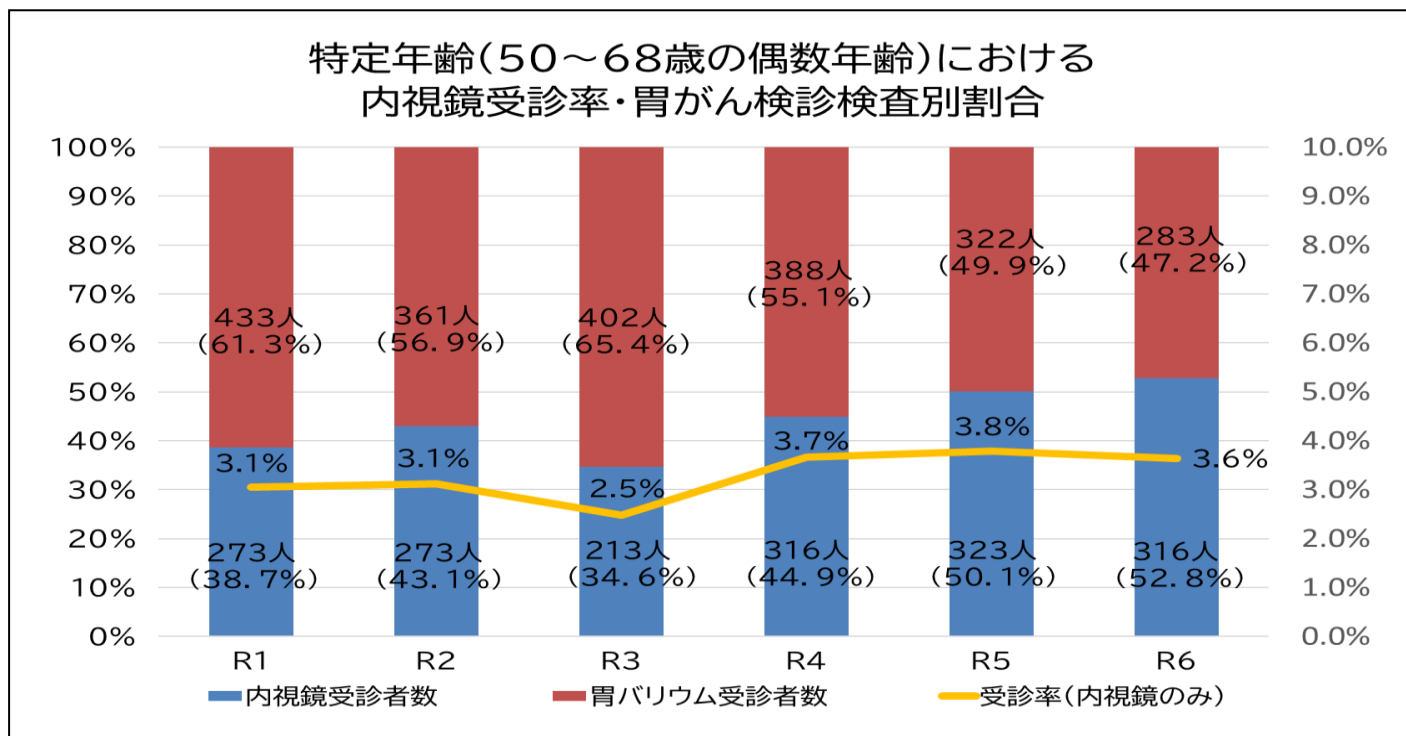
がん検診種別	無料対象年齢	検診受診率 (全対象年齢受診率)
子宮頸がん（女）	20・25・30・35・65歳	31.7%（18.2%）
大腸がん（男・女）	40・50・65歳	18.5%（14.1%）
乳がん（女）	40・45・50・55・65歳	50.4%（18.0%）
胃がん（男・女）	65歳	11.4%（8.4%）
肺がん（男・女）	65歳	14.9%（10.9%）
前立腺がん（男）	65歳	15.7%（13.2%）

検診費用無料対象年齢の受診率は、
全てのがんで全対象年齢の受診率を
上回った。



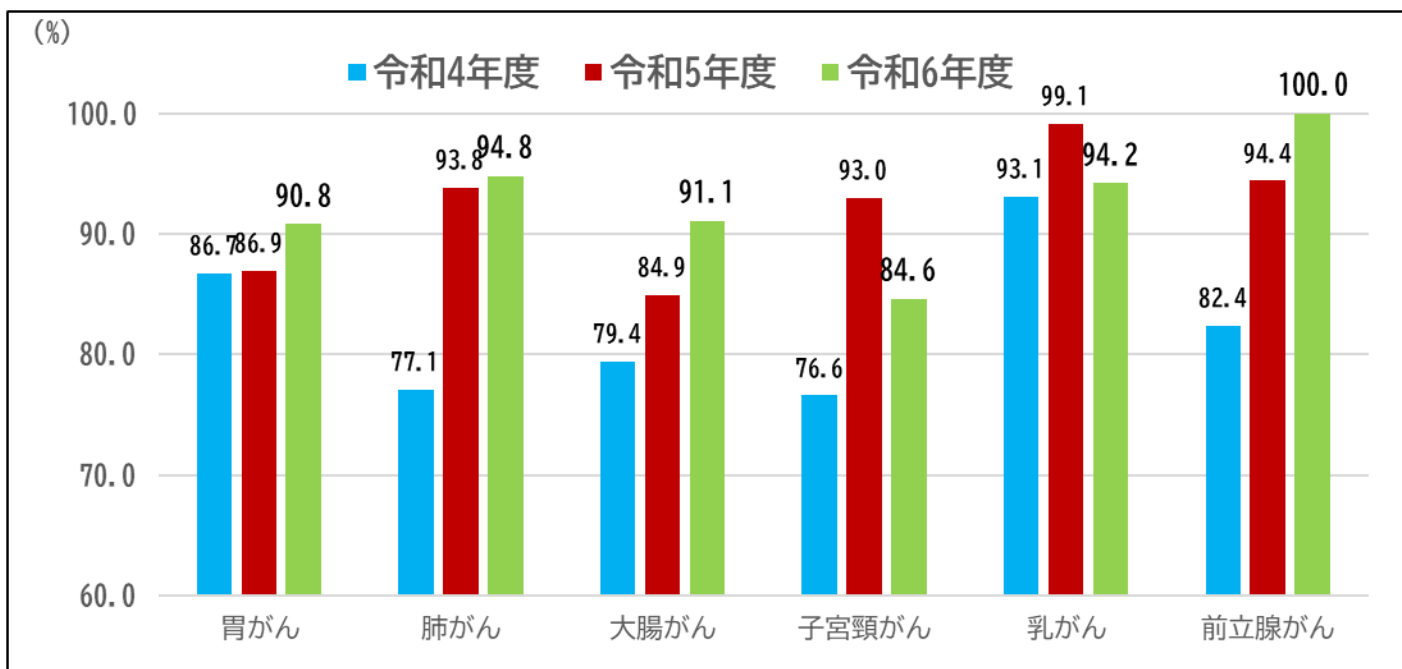
▲商業施設での女性がん検診

【内視鏡受診率と胃がん検診検査別割合】



平成29年度から開始した50歳～68
歳（偶数年齢）対象とした内視鏡
検査は胃バリウム検査に比べ、早
期に胃がんを発見できるメリット
がある。
胃がん検診受診者に占める内視鏡
検査受診率は年々、高くなってい
る。

【要精検者の精検受診率の推移】



がん検診要精密検査未受診者に対して精密検査を受診するように促すことでがんを早期発見し適切な治療に繋ぎ、がんの死亡率を減少させる。

令和6年度は精検未受診者の方全員に医療機関の勧奨を行い、精検受診率は子宮頸がんを除き、目標値の90%を達成している。

※1 子宮頸がん検診の精検受診率には妊婦子宮頸がん検診受診者も含む。

※2 令和6年度は令和7年6月25日現在の健康課把握分

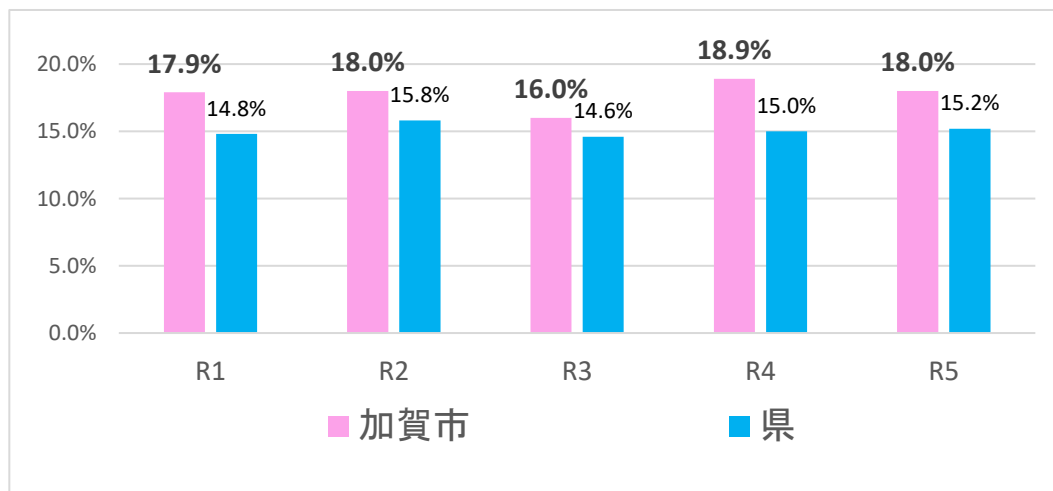
令和7年度がん検診受診率向上の主な取組

取 組	概 要	計 画
① 検診機会の確保	① 集団検診をかが交流プラザさくらでの中央検診の他、市内20地区での地区検診を実施 ② 医療機関での各種がん検診を実施	① 令和7年6月2日～12月2日 ② 令和7年6月2日～12月27日
② 検診体制の充実 ① 休日乳がん検診（加賀市医療センター） ② がん好発年齢に対する費用無料化	① 乳がん検診の受診率向上のため実施 ② 各がん好発年齢対象者は受診率向上のため無料	① 日曜日の6日間 ② 無料対象年齢は令和6年度と同じ
がん検診未受診者対策 ③ がん未受診者への個別訪問による検診勧奨（大腸がん検診容器配布） ④ 健康フェスタや商業施設での検診案内 ⑤ 65歳無料対象者への受診再勧奨	① 予約の少ない地区などに特定健診や精密検査の受診勧奨の個別訪問時に、がん検診勧奨を実施。（大腸がん検診未受診者に検便容器を配布） ② KAGA健康フェスタや商業施設での女性がん検診会場で、検診勧奨や検診予約受付を実施 ③ 個別再勧奨ハガキを対象者に送付、検診受診につなげる。	① 勧奨人数 200人（予定） ② フェスタ来場者数 500人（見込） ③ 勧奨者数 820人（6/10発送済）

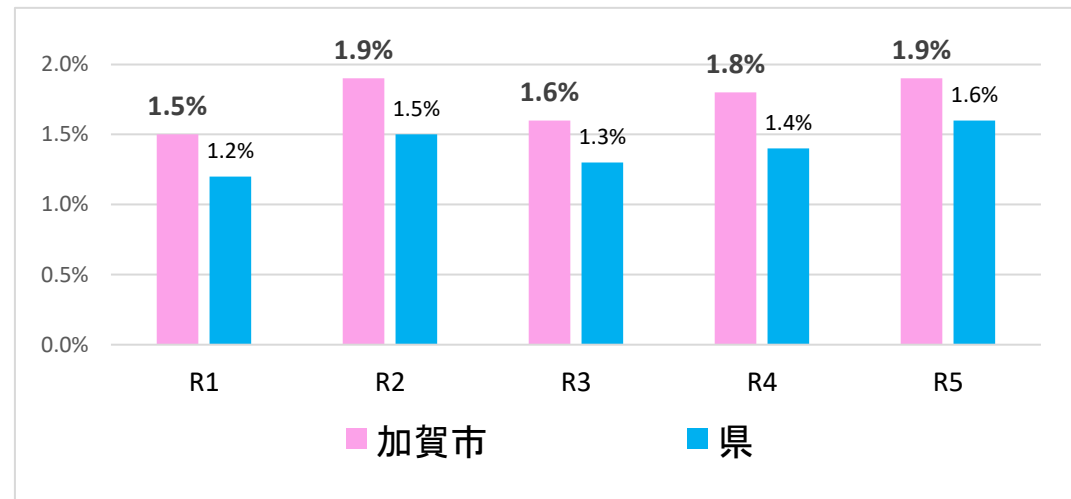
【概要】重症化予防とは、医療機関未受診者や治療中断者のうち糖尿病や高血圧等が重症化するリスクの高い方に保健指導を行い、治療に結びつけることである。
また、治療中の方においても、重症化リスクの高い方に関しては、医療と連携して、心臓病や脳血管疾患、人工透析への移行等を防止することである。

加賀市では糖尿病予防のために、糖尿病の診断となる過去1～2か月の平均的な血糖値を反映するHbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）検査を若年者健診・加賀市国保特定健診・後期高齢者健診・その他（生活保護受給者）健診で全員に実施している。

【糖尿病有病者の推移】 HbA1c6.5%以上または糖尿病治療中



【血糖コントロール不良者の推移】 HbA1c8.0%以上



加賀市国保特定健診結果より

上記のグラフ（加賀市国保特定健診の結果）から、要医療判定値であるHbA1c6.5%以上の者の割合や合併症が現れる可能性の高いHbA1c8.0%以上の者の割合は県より高い状況である。

【令和7年度重症化予防の主な取組】

取 組	概 要	令和6年度	令和7年度 【目標/見込】
要医療判定値該当者への受診勧奨および、医療と連携した保健指導	①未受診の未治療者に対し、訪問等により再勧奨を行う。 ②医療連携書を活用して主治医の指示のもと保健指導を行う。指導の際にはPHR(健康ヘルスケアアプリ等)の記録データを活用し、行動変容や生活習慣改善につなげる。	①64人 ②39人 (内PHR活用12件)	①399人(内未受診の者) ②40人(内PHR活用15件)
合併症のリスクの高いHbA1c8.0%以上未治療者・治療中者への受診勧奨および健康管理支援、課題分析	①未治療者には糖尿病専門医等への受診勧奨や治療継続ができるよう、また、生活改善等により血糖値の改善につなげる。 ②治療中者に対しても健康管理支援を行い血糖コントロール改善につなげる。	①8人 ②一	①9人 ②22人
糖尿病管理台帳の活用による継続支援	HbA1c値が6.5%以上の者を対象にした台帳を作成し、健康管理状況を訪問等で確認。若い世代だけでなく高齢になっても切れ目なく実施する。	520人	520人
治療中断者対策	市内医療機関の糖尿病療養指導士等と連携した治療中断者への健康管理支援し、地域の医療連携体制を強化する。	18人	25人
高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業	地域包括支援センターやランチ等と連携し重症化予防およびフレイルの視点で一体的に支援を行う。	4圏域	5圏域
糖尿病協議会と連携した糖尿病対策	①加賀市糖尿病協議会にて市内医療機関・歯科医師会・薬剤師会・県等と現状や課題の共有、取組内容を検討(糖尿病の周知・啓発)。症例検討会の実施 ②血糖自己測定体験 糖尿病予防相談等で市民全員対象で実施 ③歯周病と糖尿病の啓発 11月「糖尿病週間」に合わせて市内医療機関、歯科医療機関、薬局で糖尿病と歯周病の関係啓発用ポケットティッシュ、特定健診・歯周病検診ポスターを設置	①1回 ②16人 ③歯周病検診受診者数(11~12月) 約30人増	①1回 ②18人 ③歯周病検診受診者数の増加

3. KAGA健食健歩プロジェクト事業等による健康づくりの推進

対象：全市民

【概要】 KAGA健食健歩プロジェクト事業とは、一次予防に重点を置き、個々の「運動」や「食」等の生活習慣改善の取組を行政・民間企業・大学が協働で市民運動として普及推進するもの。



▲定例ノルディックウォーク会



▲KAGA健康フェスタ



▲運動教室（ラジオ体操）

令和7年度KAGA健食健歩プロジェクト事業等による健康づくりの推進の主な取組

取 組		概 要	令和6年度	令和7年度
継	定例ノルディックウォーク会	ウォーキングマップを活用したノルディックウォーク会等 委託：加賀市ノルディックウォーク協会	9回9コース 221人（延）	8回8コース 280人（延）
継	ラジオ体操	ラジオ体操の正しい仕方を中心とした運動教室（月1回） 委託：加賀市シルバー人材センター	定着：12回 429人(延)	定着：12回 540人(延)
継	健幸ポイントカード	健康づくりへの取り組みに対し、ポイントを付与し、貯まったポイントカードで抽選への応募	1,080件応募	1,000件応募
拡	健康づくりパンフレット等による周知	広報折込等による健康づくりの周知	尿酸値パンフレット	KAGA健幸ポイントヘルスケアアプリ(グッピー)活用術
継	KAGA健康フェスタ	市民が食と運動について体験を通して振り返るきっかけづくりとして開催	延べ約500名来場	延べ約500名来場

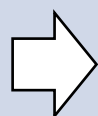
令和7年度KAGA健食健歩プロジェクト事業等による健康づくりの推進の主な取組

取 組	概 要	令和6年度	令和7年度
健康づくり推進員活動 継	市からの委嘱を受け、「市民の健康づくりを応援します」のスローガンの下、健康づくりに関する普及啓発を行う。	・ 特定健診未受診者に対する個別受診勧奨 ・ タバコについて考えるフォーラムへの参加 ・ 受動喫煙防止の普及啓発 ・ 生活習慣病予防行事への相互の参加と協力強化	・ 特定健診未受診者に対する個別受診勧奨 ・ タバコについて考えるフォーラムへの参加 ・ 受動喫煙防止の普及啓発 ・ 食生活改善推進協議会と活動の共有 ・ 生活習慣病予防行事への相互の参加と協力強化
食生活改善推進員活動 継	食を通じたボランティア活動を実践し、市民の食生活改善を推進する。	・ 生活習慣病予防(飲酒)ポスター募集&表彰交流会 ・ 野菜摂取推進、減塩推進、朝食摂取推進等研修会 ・ 生活習慣病予防講座、地区や学校の食育活動 ・ 食文化の伝承と地産地消の推進	・ 野菜摂取推進、減塩推進、朝食摂取推進等研修会 ・ 生活習慣病予防講座、地区や学校の食育活動 ・ 食文化の伝承と地産地消の推進 ・ 防災食の普及啓発

取 組	概 要	対 象	R6年度実績	R7年度目標
KAGA健幸ポイントヘルスケアアプリ (R4.7~開始)	歩数、体重記録などの健康づくりにポイントを付与し、毎月1,000ポイント以上獲得した方に抽選でデジタルギフト券、地域のお店の景品を進呈。生活習慣改善やメタボの予防・改善などの健康管理を推進。	19歳以上の加賀市民	登録者数 2,861人	登録者数 4,000人

令和7年度取組内容

- ・ ポイントを付与するイベントの拡大
- ・ アプリを通じて魅力的な健康情報を提供
- ・ 魅力ある景品・商品の提供



さらなるアプリ登録者を増やす。



アプリトップ画面

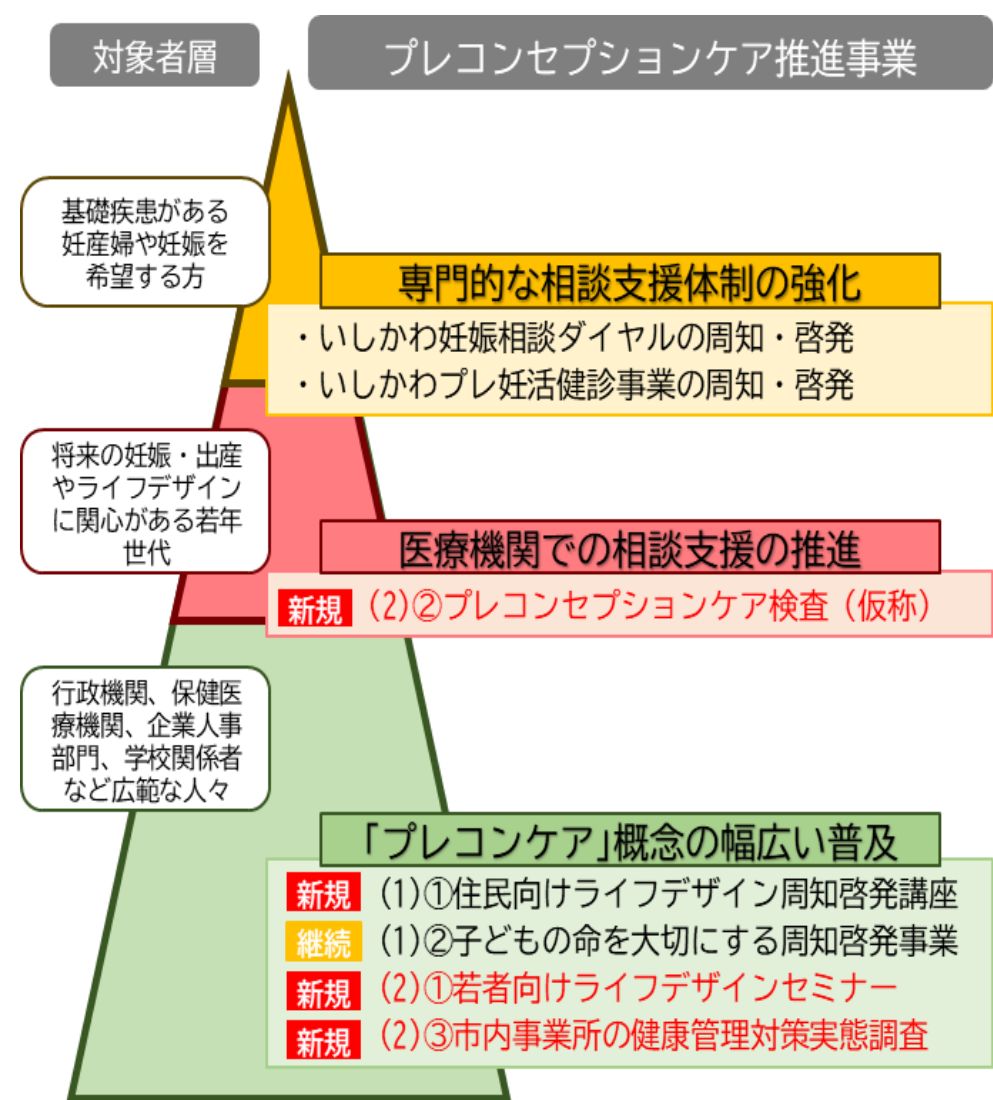
健康への意識
付けを後押し

継

4. 若年層の健康づくり推進事業（プレコンセプションケア推進事業） 対象：若年層

【概要】 若年世代が将来のライフデザイン(人生設計)に資する視点を持ち、男女を問わず自分の身体に関心を持ち、将来、希望する方が、安心安全で健やかな妊娠出産に備えた健康管理に取り組むプレコンセプションケアを普及啓発する。

令和7年度 プレコンセプションケアの普及に向けた主な取組



(2) ①若者向けライフデザインセミナー

若者世代の男女に対して、将来の健やかな妊娠出産も含めた健康管理について正しい知識を得て、健康的な生活習慣やライフデザイン（人生設計）を考える機会とするため、産婦人科医師等によるセミナーを実施する。

【受講者数・実施回数：約100人・1回】

(2) ②プレコンセプションケア検査（仮称）

希望する女性に身体計測やAMH検査の血液検査※ 等を実施する。後日、検査結果をもとに、医師からの結果説明と女性の健康に役立つアドバイスを実施する。

※AMH検査…卵巣内の卵子の数の目安（卵巣予備能）を知るため、抗ミュラー管ホルモン（AMH）の値を調べる血液検査

【対象・対象者数：20～30代の女性・約50人】

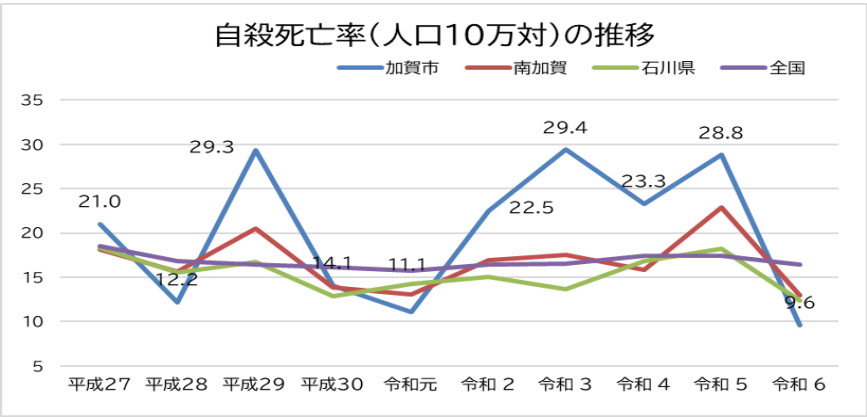
(2) ③市内事業所の健康管理対策実態調査

若い世代の描く本市でのライフデザインの実現に官民が連携して取り組むために、市内事業所に対してプレコンセプションケアやがん検診をはじめとした健康づくりの取組に関するアンケート調査を実施する。

【調査事業所数：約200事業所】

【概要】 自殺対策基本法や自殺対策要綱に基づき、地域福祉計画とあわせ一体的に「第2期 加賀市自殺対策基本計画」を策定（R7.4）し「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現を目指す。

(人口10万対)



加賀市の自殺死亡率はコロナ禍以降上昇傾向にあったが、令和6年は県や全国と比較して低い傾向となった。

令和7年度こころの健康づくり対策の主な取組

取 組	概 要	令和6年度	令和7年度
対面型相談支援事業	面接、電話、訪問、メール相談、他機関との連携会議	延べ496件	延べ400件
人材育成事業	ゲートキーパー講座（回数）※	100人（5回）	100人（5回）
	従事者向けゲートキーパー講座（回数）	0人（0回）	2回（40人）
啓発普及事業	自殺予防週間街頭キャンペーン	チラシ等 約100部配布	チラシ等 約150部配布
	こころの健康づくり講演会	81人(テーマ：睡眠)	80人(テーマ：ストレス(仮))
	SOSの出し方に関する教育(市内小中学校)	12校	14校
	相談窓口の周知	カード約10,620枚	カード約10,000枚

※「ゲートキーパー」とは、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のことで、いわば「命の門番」とも位置付けられる人のことです。

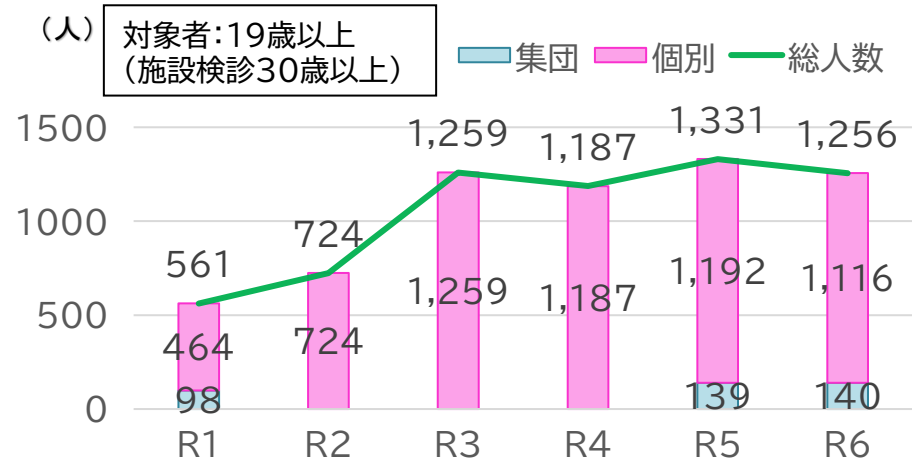
6. 歯科口腔保健対策

対象：全住民

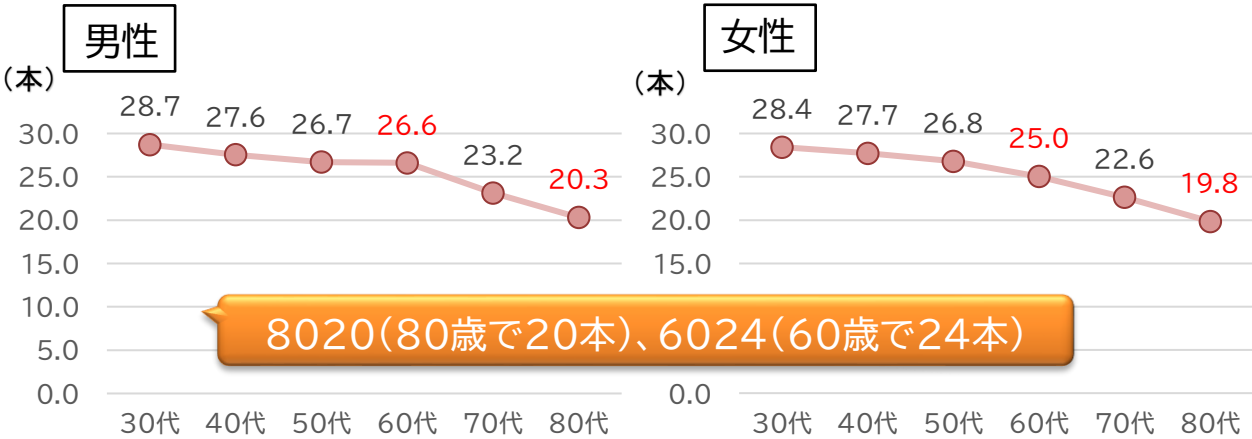
【概要】歯科疾患の予防には「う蝕予防」と「歯周病予防」が重要とされており、「歯周病検診」の実施、「歯と口の健康週間行事」でのう蝕予防の啓発普及、保育園や小学校での「フッ化物洗口」の事業に取り組む。

(1) 歯周病検診 対象：19歳以上の市民

【歯周病検診受診者数の推移】



【平均残歯数(令和6年度)】



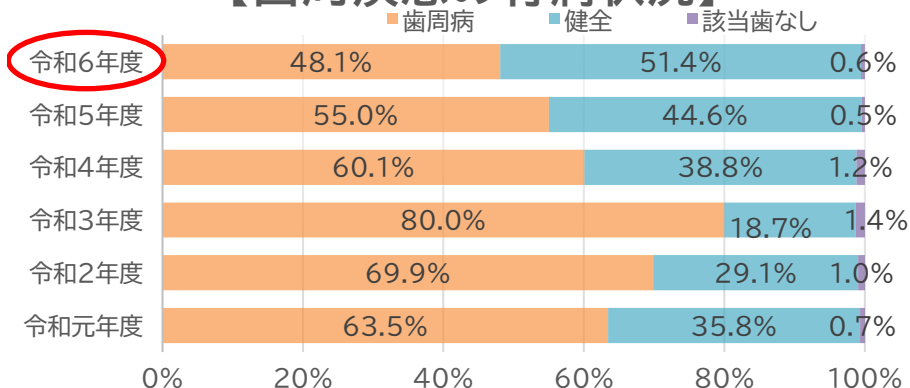
歯周病検診受診者数は、令和3年度以降1,200人前後を維持。今後も更に歯周病検診を周知・啓発していく必要がある。

令和7年度歯周病検診受診率向上の主な取組

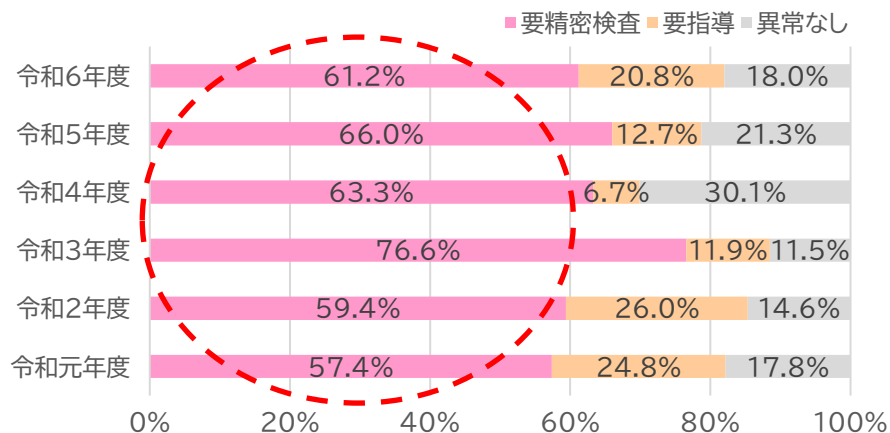
取組	概要	令和6年度	令和7年度 【目標/見込】
魅力ある検診づくり 受けやすい体制の整備	①集団検診を2回実施 歯と口の健康週間（6月） 特定健診と同時実施（11月） ②市内26歯科医療機関にて個別検診を実施 ③歯周病検診受診券（無料クーポン券）を配布	延べ1,256名受診（受診率2.31%） ⇒①集団検診 140名 ②個別検診 1,116名	1,614人 （検診受診率 3%）
受診勧奨 周知・啓発	①個別通知の封筒やはがきにて歯周病検診の案内を表記 ②労働基準協会の協力得て、働く世代にチラシを配布し周知 ③歯と口の健康週間における周知 ④KAGA健幸ポイントヘルスケアアプリや加賀市公式LINEを活用しての受診勧奨 ⑤精密検査未受診者への受診勧奨	①対象者数 54,427名 ②がん検診のチラシとともに配布(9月) ③歯と口の健康週間行事(6月2日)の際にポスターにて事前周知 ④集団検診(6月、11月)開催時にKAGA健幸ポイントヘルスケアアプリでの事前周知 ⑤対象者数 15名（うち7名精検受診）	①対象者53,804名に送付済み（5月中旬） ②がん検診のチラシとともに配布予定(9月ごろ) ③歯と口の健康週間行事の際に周知済み(6月1日) ④集団検診開催時(6月(終了)、11月)に事前に周知

歯周病検診の結果状況

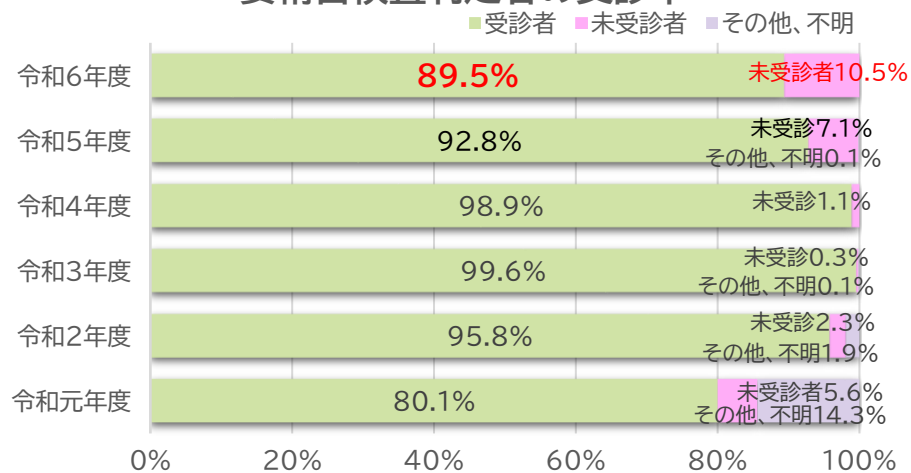
【歯周疾患の有病状況】



令和6年度受診者の5割近くが歯周病

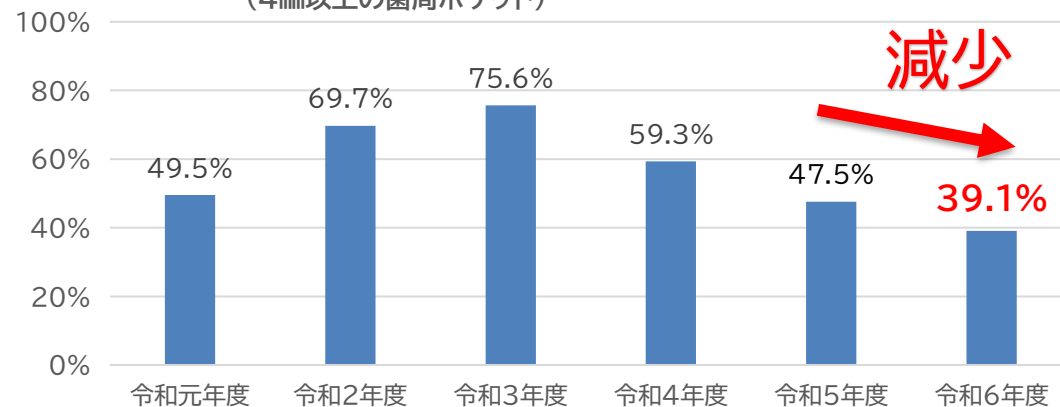


要精密検査判定者の受診率

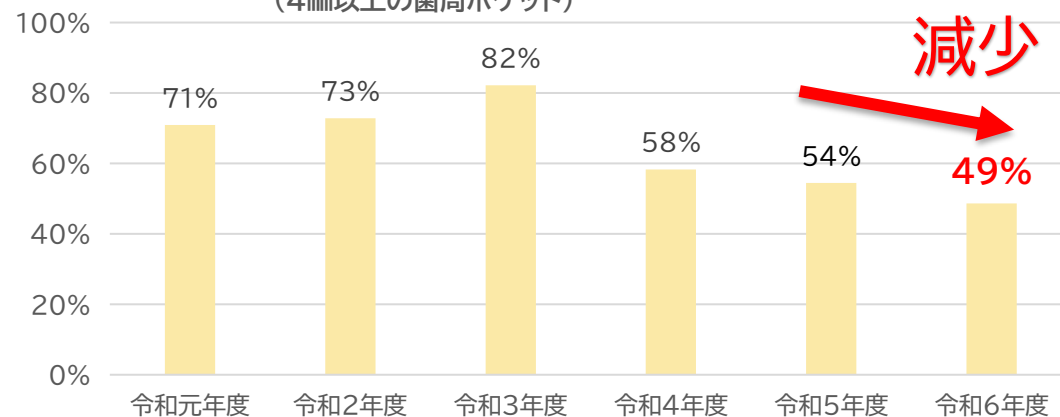


【かがし健康応援プランより歯周病を有する者の割合の減少】

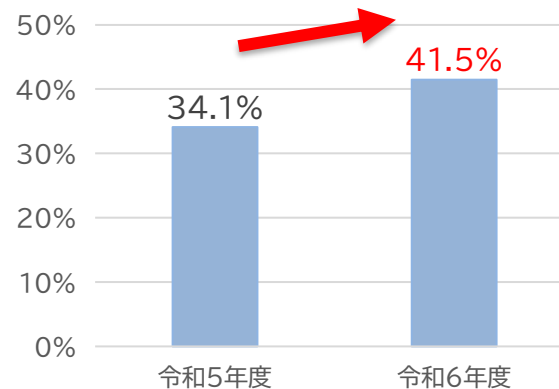
イ 40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少
(4mm以上の歯周ポケット)



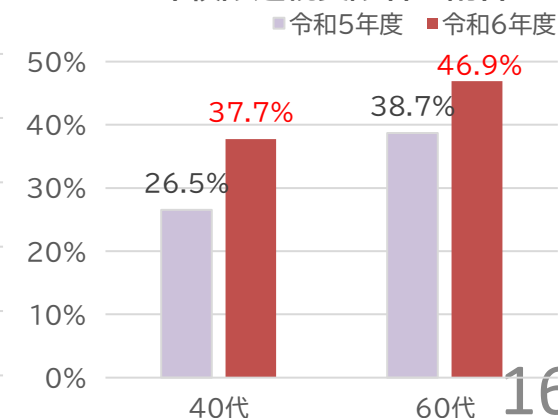
ウ 60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少
(4mm以上の歯周ポケット)



2年連続検診受診者の割合



40代、60代における2年検診連続受診者の割合



(2) 歯と口の健康週間行事

う蝕予防対策として、歯と口の健康週間行事(R7年6月1日)の来場者に対し、フッ素塗布・口腔清掃指導を行った。

- ・来場者数(市民) 261人
再掲) フッ素塗布(2歳~小学生) 87人、19歳未満検診 90人



▲フッ素塗布の様子

(3) フッ化物洗口について ~こどものむし歯予防対策~

むし歯予防対策として、健康格差の縮小を目指し、こどものむし歯予防に効果のあるフッ化物洗口を実施する。

令和7年度	実施箇所	対 象	開始時期
保育施設	20か所/26か所	4・5歳児 クラス	年長:継続(4月~) 年中:各園で順次開始
小学校	17か所/17か所	全学年	継続

保育施設におけるフッ化物洗口導入状況

(県のフッ化物洗口推進のモデル事業として開始)

令和6年度

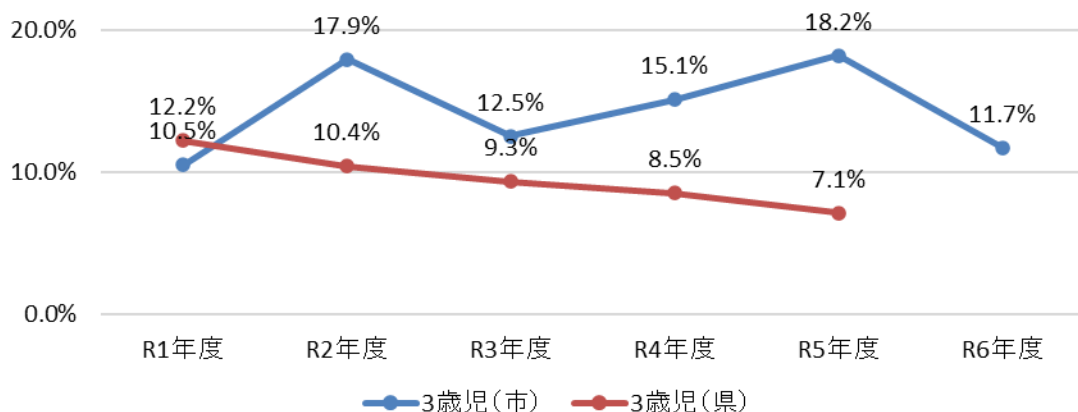
実施施設数:19か所

実施率 : 年長児 90% (252人/280人)

年中児 89% (176人/198人)

実施時間 : 昼食後や登園後に実施

3歳児健診むし歯のある児の年次推移



3歳児健診でのむし歯がある児の割合は、石川県平均と比べると経年的に高い割合となっている。

【保育現場の感想】

- ・こどもは嫌がることもなく、誤って飲むこともなく実施できた。
- ・思っていたより、大変ではなかったのでよかった。
- ・慣れるまでに少し時間を要したが、慣れたらこどもも大人もスムーズに行えた。
- ・飲み込んでしまいそうなこどもやすぐに吐き出すこどもも数人いたが、繰り返すうちにできるようになり習慣づいた。